



\* M 1 0 2 8 H 0 1 5 M A 1 C C 1 3 1 1 3 0 0 0 0 0 2 4 0 \*

28日付 京都1面15版  
2018年10月24日13時44分08秒  
出力先省略 箱組

◎新天眼 (4月～)  
ID=CC13113000000240  
校正回数=19 158倍 0×19行 0



# レーザーのアインシュタイン

佐藤 文隆

本庶佑先生へのノーベル賞は基礎から実用まで、科学の社会への貢献を一人でも方々やっていた。その姿を印象つけるもので、研究者の姿勢を問いかける意義深いものであった。

ある。これで高強度・超短パルスのレーザー光が得られ、医療に直接使うことなどほもう普及しているようだが、この高強度レーザー光をプラズマに打ち込んで粒子加速を行う試みも続いている。粒子加速器は巨費を要する巨大実験装置の典型とされているが、それをデスクトップの扱いやすい装置で実現する画期的な試みである。



研究所」はムル氏たちの高強度レーザー技術を発展させる日本での研究拠点の一つである。名誉館長の頃にレーザー粒子加速の提唱者である田島俊樹氏が米国から帰国して研究所の所長に着任した。彼は宇宙プラズマの研究でも知られ、花山天文台の柴田一成台長と共著の英語の専門書もある。私が当時興味持っていた宇宙線の最高エネルギーについて田島氏と議論を交わしたものだ。このとき彼から今度のノーベル賞のチャープ法を聞いて感銘し、ある雑誌のノーベル賞予想アンケートの際にはチャ

ープ法を挙げたこともあった。話が飛ぶが、科学館の展示物を初めて見たとき、レーザー開発の年表にアインシュタインが落ちていると指摘して、1917年のアインシュタインによる誘導放出の発見を年表に書き加えてもらった。その後、アインシュタインの05年の業績を記念する「世界物理年」が2005年に挙行された。韓国物理学会が企画したある大学のイベントに参加する機会もあったが、目玉の一つは参加者全員が世界物理年のロゴマーク入りのレーザーポインターがもらえることだった。

日本のポピュラーサイエンスの風潮では、アインシュタインは宇宙論とか統一理論とかのアイコンであり、レーザーをアインシュタインに結びつけるのは奇異に見える。しかし、この時の欧米でのイベントでもレーザーを用いたラビートンなどがよく行われたようで、韓国独特ではないのである。また世界物理年をユネスコに提案して国連総会決議にまでもっていったのはフランスのレーザー学者たちであった。この年、田島氏に依頼されて京阪奈プラザであったレーザー学会の年会でアインシュタイン論を講演したことがあった。最近の重力波発見で「やっぱりアインシュタインは宇宙だ」と戻りそうだが、発見を可能にしたのはレーザー技術であったことも銘記すべきであろう。

(京都大名舎教授、物理学)

+